

個人投資家 NOW

② 将来の主役たち

この日は東証が中学生を対象とした「親子金融体験バスツアー」を開催。丸一日かけて日本銀行や野村証券のディーリングルームなどを回る。昨年に続き二回目だが、募集から三日で定員がいっぱいになる人気の企画だ。

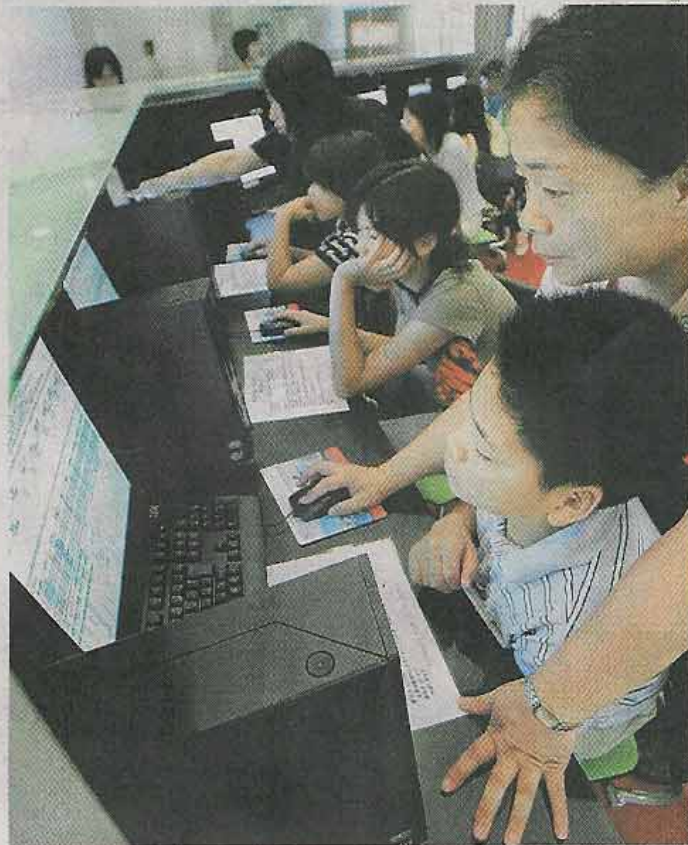
「ちょっと、下げてるわよ！ 早く売りなさい」「いくらになったら買えばいい？」。七月下旬の東京証券取引所。実際に株を売買している雰囲気味わえる二階の株式模擬売買のブースは、夏休みに入ったばかりの十六組の親子の熱気でむんむんだ。

「子供に『株ってなに』って聞かれて答えられなくて」。中学一年生の長男と参加した横浜の主婦は苦笑しながら参加の理由を説明する。中山真理さん(44)・かりんさん(13)親子は「投資のことは学校では教えてくれない」とわざわざ香港からの参加だ。

親のほとんどが「株式運用は興味はあるけどちよっと……」と未経験者。売買で一番の利益をあげた小沢貴大君(14)は「ゲだという菅野光君(14)はこだわりがない。模擬

模擬売買に興味津々

「もっと勉強したい」。



東証が主催する株式模擬売買に参加する親子

(東京都中央区)

と笑顔を見せた。

「株のような金もつけないを教えるのは不謹慎」。これまでの日本の教育関係者の言い分だった。「それこそおかしい。株式投資は経済の最高の教材」と東証の赤峰信審議役(54)は反論する。株式投資に抵抗のない世代に正しい知識と経験の場を提供したいと話す。

内閣府の二〇〇二年の調査によると証券投資の経験者は二十代で五%、三十代で一割強どまり。勢いを増す個人投資家の層を厚みのあるものにするためには、未来の投資

■株の売買

個人投資家が証券会社に出した株の売買注文は、証券会社を経由し通常、東証などの取引所に集まり、取引所で売りと買いを付け合わせる。以

前は人手に頼っていたが、現在はすべてコンピューターで処理している。ネット証券の登場で、個人投資家の売買が活発になり、取引所はコンピューターの容量を大きくする必要に迫られている。